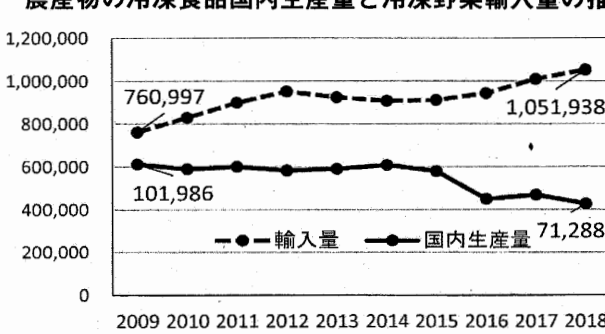


18年の冷凍食品国内生産量

# 農産物77年以降最少に

## 天候不安定で 冷凍野菜輸入量は増加

2018年の農産物冷  
凍食品の国内生産量が7  
977年以降で最も少な  
くなつたこ  
とが日本冷  
凍食品協会  
の調査でわ  
かつた。一  
方、18年の冷  
凍野菜輸入  
量(財務省貿  
易統計)は前  
年比4.3%  
増加の10  
5万193  
8トで過去  
最高を記録。  
国内生産量  
が減少する  
一方、輸入が  
増加する背



2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018

景には、近年の天候不安  
定化の影響もあると見ら  
れる。

\* \*

冷凍食品の国内生産量  
は同協会の会員企業に調  
査したもののため、実際  
に流通するのはこれより  
も多くなる。同協会の取  
りまとめでは、冷凍食品  
の国内生産量は158万  
7008トで、前年に比  
べて0.8%減少した。  
工場出荷額は7154億  
円で、ほぼ横ばいとなつ  
た。国内生産量のうちフ  
ライなどの調理食品が庄  
倒的に多く、農産物は全  
体の4.5%を占めてい  
る。

農産物の国内生産量は  
1977年から2018  
年の間で10万トを超えた  
年が12回あるが、おおよ  
ね8万ト台〜9万ト台で  
推移。ただ、14年の10万  
1485ト以降、16年に  
は8万ト台を割り、18年  
には最少を記録した。

18年の農産物の品目別  
生産量は、ジャガイモ  
(2万4805ト)で6.  
3%減少、コーン(73  
10ト)は一昨年の水害  
も影響し21.4%減少、  
ホウレン草(7133ト)  
は12%減少した。一方、  
ニンジン(6552ト)  
は1.3%増加した。  
なお、18年の冷凍野菜

輸入量をみると、ジャガ  
イモ(38万1644ト)  
は前年に比べて1.0%  
増、コーン(5万417  
5ト)0.5%増、ホウ  
レン草(5万1800ト)  
13.9%増加した。

農産物の国内生産量の  
うち、業務用は5万42  
43ト、家庭用1万70  
45トで、前年に比べて  
それぞれ18.1%減、42.

1%増加。農産物国内生  
産量に占める構成比はそ  
れぞれ76.1%、23.9  
%で、家庭用の構成比は  
前年に比べて8.6ポイ  
ント拡大した。消費者に  
とって冷凍野菜ならではの  
の価格が安定し、「使い  
たいときに使用できる」  
という利便性が認知され  
つつあることがうかがえ  
る。